

## 新川こども施設の整備・運営に係る事業方式について

### 1 民間活力導入可能性調査業務委託

【委託業者】 (株) 日本総合研究所

【調査内容】 民間事業者へのヒアリング、VFMの算定等による総合的な比較検討を通して、最適な事業方式を選定する。

【調査結果】 「PFI-BTO方式」が最も適している。

#### <事業方式比較>

事業方式	PPP		PFI
	①従来方式(公設民営)	②DBO方式	③PFI-BTO方式
概要	・設計、施工を分割発注 ・維持管理・運営は指定管理者制度	・PFI法に沿った手続きにより事業者を選定 ・設計、建設、維持管理・運営を一括発注(維持管理運営は指定管理者制度)	・PFI法に基づき事業者を選定 ・設計、建設、維持管理・運営を一括発注(維持管理運営は指定管理者制度)
プロジェクトマネジメント主体	県	県	民間(SPC)
設計	県	民間 (建設後、概ね15年)	民間 (建設後、概ね15年)
建設	県		
維持管理・運営	民間 (原則：3年)		
発注形態	分割発注・仕様発注	一括発注・性能発注	一括発注・性能発注
VFM (財政負担軽減効果)	—	8.0% (約3億円の軽減効果)	4.6% (約1.8億円の軽減効果)

### 2 事業方式

**PFI-BTO方式**を採用する。

#### <採用理由>

- ・ 自由度の高い新施設の整備にあたり、従来方式に比べ各業務における民間のノウハウ・創意工夫を発揮する余地が大きいことに加え、財政的メリットも期待できる。
- ・ 「PFI-BTO方式」では、設立されたSPC(特別目的会社)が設計、建設、遊具、維持管理、運営などの関係事業者を全体調整し、主体的なプロジェクトマネジメントを行うこととなることから、マネジメント主体が引き続き県となる「DBO方式」による場合と比較して、より一体的な整備・運営体制が構築できるほか、出資企業の経営状況に影響されず安定的な運営が期待できる。
- ・ 民間事業者に最も支持された方式であり、財政負担軽減効果では「DBO方式」に優位性はあるものの、上記定性評価を加味した総合評価により「PFI-BTO方式」を採用する。

### 3 今後の想定スケジュール

令和5年度：事業者公募・選定(～令和6年度)

令和7年度：基本設計・実施設計(～令和8年度)

令和8年度：建設工事(～令和9年度)

令和9年度：建設工事・開館準備・開館

# 新川こども施設の事業方式について

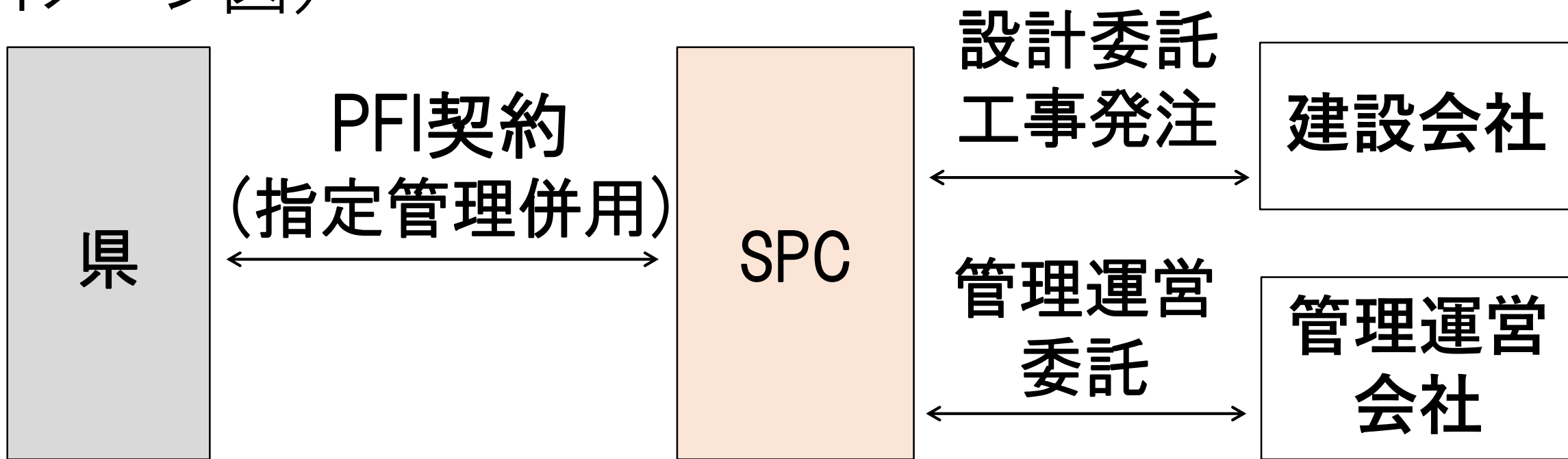
## 新川こども施設民間活力導入可能性調査業務

- 目的 : **新川こども施設の整備、運営に最適な事業手法を選定**
- 内容 : **民間事業者へのヒアリングや定性・定量評価を通して各手法を総合的に比較検討**

# 新川こども施設の事業方式について

○調査結果：PFI-BTO方式が最も適している

(イメージ図)



# 新川こども施設の事業方式について

## ○新川こども施設の事業特性

- ・ 自由度の高い新設施設であり、**民間の提案余地が大きい**
- ・ 運営が重要な施設であり、**設計段階から運営者のノウハウを反映する必要がある**



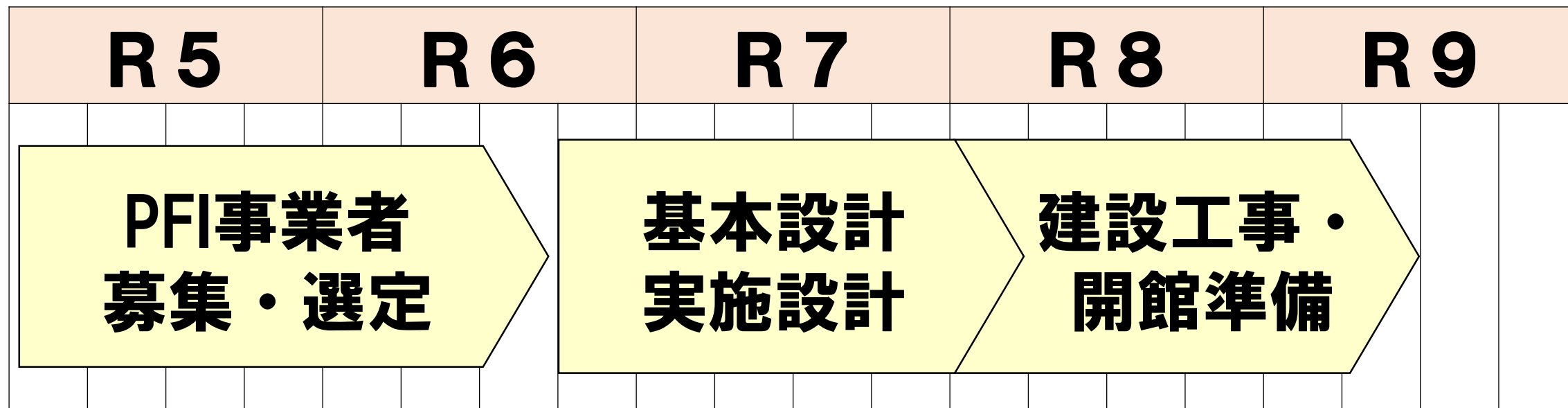
# 新川こども施設の事業方式について

## OPFI-BTO方式の採用理由

- 設計、施工、運営の**一括発注・性能発注**により民間のノウハウ・創意工夫を引き出しやすい
- 一定の財政メリットも期待（VFM4.6%）
- **SPC（特別目的会社）**による**民間主体のプロジェクトマネジメント（一体的な整備・運営体制の構築）**

# 新川こども施設の事業方式について

## ○今後の想定スケジュール



※スケジュールは今後変更の可能性がある。